

コンソーシアム研究グループ 活動記録

2005年5月11日(水) 10:00-13:00

参加者：伊藤、坂下、小野(記録)

1. 研究発表の内容・構成について

研究発表の内容・構成について各自がまとめてきた案を摺り合わせ、ひとつにまとめる作業をした。(別紙参照)

テーマは、「日本における大学図書館コンソーシアムのゆくえ(仮題)」とし、日本の大学図書館の現状、抱えている問題を踏まえた上で、今後のコンソーシアムに求められるものは何かについて私たちなりの考えを提示することを目標とする。

2. 海外の図書館コンソーシアム研究

日本の大学図書館コンソーシアムを考える上で、海外の先進的なコンソーシアムの成功例に学ぶことは大きいと考え、これまでに引き続き今回も「ボストン図書館コンソーシアム」「トライアングル研究図書館ネットワーク(TRLN)」「坂下さん」など、各自がまとめた資料や持ち寄った文献を基に海外の図書館コンソーシアムの研究を行なった。また、今後研究してみたいコンソーシアムをリストアップし、次回までの宿題として分担を決めた。

3. 日本の図書館コンソーシアムの特徴と今後について

海外の図書館コンソーシアムを研究しながら、その成功のポイントや日本の図書館コンソーシアムとの違いについて話し合った。欧米などでは地方自治体の資金がコンソーシアムの主な運営費となっているケースがあるのに対し、日本では公共図書館のコンソーシアムについてあまり聞かないが、現状はどうなのか。TRLNの例があるコンソーシアム専任職員の雇用は日本で例があるのか。レファレンスの相互支援などは日本においてどの程度行なわれているのか、など様々な疑問も出され、今後の調査課題とすることにした。

また、これからの日本の大学図書館コンソーシアムはどうなっていくのかについても意見を交換した。大学図書館から専任スタッフが減りつつある状況がコンソーシアム形成に及ぼす影響や、そこから新しい協力関係が生まれる可能性などについて意見が出された。

4. 次回の予定

- ・引き続き、海外を中心にコンソーシアムの成功例に学ぶ
- ・図書館コンソーシアムについて書かれた文献を読む
- ・これからの図書館コンソーシアムについて意見交換する

次回までの宿題

- ・各自分担したコンソーシアムあるいは調査事項についてまとめる
- ・参考になりそうな文献を探す

(コンソーシアム研究グループ 2005 年 5 月 11 日 裏記録)

・次回までの宿題について

伊藤さん ・日本の公共図書館コンソーシアムの存在について
・英国の公共図書館コンソ：EARL について
・CURL, ALICE について

坂下さん ・TRLN の専任スタッフの給料の出所について
(加藤さん：「会費でまかなっている」)
・九州大他、日本のレファレンス相互支援の現状について

小野 ・GASCO (複数国のコンソ)について
・ICOLC, ナショナルサイトライセンスについて
・協会・協議会とコンソの違いについて
(加藤さんから示唆あり)

全員の宿題・上記の他に研究すべき海外コンソ事例を探す(できればまとめてくる)
・参考となる文献を探して、紹介できるように読んでくる

・加藤さんのアドバイス

・協議会・協会と比べてコンソの違いは (2 - 4 について補足説明お願いします)

1. 設置目標が限定されている
2. 組織
3. 予算
4. 専門職がいる

・EJ 契約交渉業務の外部委託について
丸善や紀伊国屋などが新たなサービスとして事務局をやればよい。
支払いのノウハウを持っているし。

・今後のコンソーシアムの可能性について
人的コンソーシアムしかない。
情報を扱うプロ集団として(組織の?)壁を越えた活動を
(これについても補足説明お願いします)

・歴史的なことより今動いているコンソーシアムについて研究したら
京都コンソは成功の4つの条件を備えている状態